

1200年間、歩みを止めない道があります。

# 世界遺産 高野山町石道

慈尊院から大門を経て奥之院まで

## 高野山案内図



高野山町石道踏破コース(約21km/約7時間) ※所要時間は目安です。●施設見学時は含んでいません。

九度山駅	真田庵	慈尊院	展望台	雨引山分岐	六本杉	古峠	二つ鳥居	神田地蔵池	笠木峠	矢立	大門	根本大塔	高野山駅
10分	20分	30分	15分	35分	50分	10分	10分	1時間	50分	2時間	10分	バス	
0.5km	1.2km	1.5km	0.8km	1.9km	2.0km	0.4km	0.6km	3.2km	3.0km	5.8km	0.5km		

**真田庵(さなだあん)**  
 善名称院(ぜんみょうしょういん)別名「真田庵」は、牡丹の名所としても知られ、和歌山県の史跡に指定されています。慶長5年(1600年)、関ヶ原の戦いで西軍に属して敗れた真田昌幸・信繁(幸村)父子は、女人禁制の高野山に配流の身となり、妻を連れていたために九度山に移され、隠居生活を送りました。善名称院には、その屋敷があったと伝えられています。その後、寛保元年(1741年)に九度山出身の大安上人が、真田昌幸の墓所に地藏菩薩を安置した一堂を創建しました。

**九度山駅(くどうやまえき)**  
 南海鉄道が大坂高野鉄道と高野大師鉄道を同時に合併した2年後の大正13年(1924年)12月に開業。平成21年(2009年)には「こうや花鉄道プロジェクト」の一環として橋本方面行ホームに「九度山真田花壇」が設置され、真田幸村のゆかりの地である九度山をイメージした「真田幸村と十勇士」のイラストとともに旅人の目を惹きつけています。平成21年2月、地域活性化に役立つ産業遺産としての価値が認められ、経済産業省「近代化産業遺産」に認定されました。

**勝利寺 紙遊苑(しょうりじしゆうえん)**  
 弘法大師(空海)が高野山を開創される以前の創建と伝えられています。大師が42才の時、厄除けのために十一面観音を奉納されたことから、厄除観音として古くから信仰され、現在はスポーツや勝負ごとに関することを祈願する寺として親しまれています。境内にある紙遊苑は、勝利寺の建物、庫裏・土蔵・長屋門・庭園を擁し、そこに茅葺きの体験資料館を建設したもので、弘法大師(空海)に教えられたとされ、最盛期には九度山町吉沢を中心に約100軒もあった手書き和紙「高野紙(古沢紙)」の伝統を今に伝えています。

**銭蔵石(せんづかいし)**  
 文永2年(1265年)、寛教(かくきょう)上人の発願により、20年という長い年月をかけて町石道が整備されました。整備作業の際、北条時宗の外戚である安達泰盛(やすもり)が、この石の上に置いた銭に給金を入れ、作業員につかみどりをさせて与えたという伝承があります。銭蔵は上部がくびれているため、欲を出してたくさん銭をつかんでも手がひっかかずに取り出すことができず、そのため、大きな手でも、小さな手の者でもつかめる銭の量は大きかったとされています。

**慈尊院(じそんいん)**  
 弘仁7年(816年)、弘法大師(空海)が高野山開創の際、この地に表玄閣として伽藍を草創し、一山の庶務を司る政所、高野山への宿所、冬期の遊覧修行の場所とされました。承和元年(834年)に讃岐国(香川県)から高野山を訪れた弘法大師(空海)の母公が、女人禁制のため入山を許されず、翌年にこの地で亡くなったことから、弘法大師(空海)は母公のために弥勒堂(弥勒)を造らせ、弥勒菩薩坐像(国宝)を安置しました。それ以来、慈尊院は「女人高野」とも呼ばれ親しまれてきました。当時の慈尊院は、今の場所より北側にあり、1,800坪の広さがあったと伝えられています。

**丹生官省符神社(にうかんしょうふじんじや)**  
 弘法大師(空海)が慈尊院を草創した弘仁7年(816年)、その鎮守として丹生都比売神社(にうつひめ)・高野御子(こうやみこ)の二神を祀ったのが始まりと伝えられています。本殿は国の重要文化財に指定されています。紀ノ川の氾濫を危惧し、慈尊院の弥勒堂が現在の位置に移された際、この神社も一段高い神楽尾山(かぐらおやま)へ移されました。その時、丹生都比売神社にならって、比売・尾山を合わせた四神とし、さらに古くからこの地に鎮座していた天照、八幡、春日の三神を合わせた七社明神としました。

**樺時石(かやまきいし)**  
 157町石に沿って左の道を少し登ると樺時石があります。樺の木は葉が少なく高級建築材として有名ですが、かつて、その実から油を絞っていました。弘法大師(空海)が土地の人々に高野山の灯明の油を生産してくれるように樺の木の種を植えた所と伝えられています。

**丹生都比売神社(にうつひめじんじや)**  
 創建は約1700年前と伝えられています。鎌倉時代に行勝上人により、弘法大師(空海)から大食部比売大神(おほけつひめのおおかみ)・飯島神社からは市杵島比売大神(いちきしまりめのおおかみ)が勧請され、社殿が比来政子により寄進されました。これで丹生都比売大神(にうつひめのおおかみ)を祀った第一殿、高野御子大神(たかのみこのおおかみ)を祀った第二殿と合わせ、本殿が四殿となり、このころから興業法会が明治のはじめまで盛んに行われてきました。また、高野山参詣の表参道である町石道の中間にある二つ鳥居は、神社境内の入口です。この丹生都比売神社に参拝した後に高野山に登ることが習慣でした。

**根本大塔(こんぽんだいとう)**  
 弘仁7年(816年)から弘仁3年(877年)ごろにかけて完成したと伝えられています。弘法大師(空海)がこの大塔を真言密教の根本道場におけるシンボルとして位置づけたことから、根本大塔(こんぽんだいとう)と呼ばれています。本塔は胎藏大日如来、周には金剛界の四仏(しぶつ)が取り囲み、16本の柱には堂本印像(あべのいざな)の像による十六大菩薩(じゅうろくたいぼさつ)、四隅の壁には密教を伝えた八祖(はっす)の像が描かれ、室内にそのものが立体的に装飾(まんだら)として構成されています。なお、現在の建物は昭和12年(1937年)に再建されたものです。

**女人堂**  
 その昔、高野山には七つの登り口があり、高野七口(こうやななくち)と呼ばれていました。明治5年(1872年)に女人禁制が解かれるまで、高野山内への女性の立ち入りは厳しく制限され、そのため各登り口に女性のための参籠所が設けられ、女人堂と呼ばれました。現在の女人堂は唯一現存する建物です。

**不動坂日ルート**  
 現在の不動坂が開通した高野山開創1100年当時より以前にあつたルート。平成24年(2012年)に100年の時を経て復元されました。ルートは急傾斜で48箇所も曲がりがあり、かつて難所とされてきた「いろは坂」や、高野山で罪を犯した者を処罰した方丈転(ばんしやうころがし)の場所などがあります。

**大門**  
 高野山の入口にある、一山の総門である大門。開創当時は現在の地より少し下つた九十九折(つづらおり)谷に鳥居を建て、それを総門としていたそう。山火や落雷等で焼失。現在の建物は宝永2年(1705年)に再建されました。高さは25.1メートルあり、左右には連作の金剛力士像が安置されています。国の重要文化財にも指定されています。

**金堂**  
 弘仁10年(819年)に創建。高野山開創当時は講堂と呼ばれ、平安時代半ばから、高野山の総本堂として重要な役割を果たしてきました。現在の建物は7度目の再建で、昭和7年(1932年)に完成しました。梁間23.8メートル、桁行30メートル、高さ23.73メートルの入母屋造りです。関西近代建築の父といわれる武田五一博士の手によって、耐震耐火を考案した鉄骨鉄筋コンクリート構造で設計、建立されました。

**鏡石(かがみいし)**  
 表面が鏡のように平らなことから鏡石と呼ばれています。この石の角に座って真言(しんごん)をと念うと、願いが成就するとのいわれがあります。

**押上石(おしあげいし)**  
 弘法大師(空海)の御母公が女人禁制の高野山へ結界を越えて入山しようとしたとき、激しい雷雨が火の雨となったといいます。弘法大師(空海)はこの石を押し上げて、御母公をくまると伝えられ、この石を押し上げたときの両手の跡が残っているとされています。

**袈裟掛石(けさかけいし)**  
 弘法大師(空海)が袈裟をかけたという伝説があり、この名で呼ばれています。また、袈の字形をなしているのが袈掛石とも、石と石の間をくぐるかと長生をきすと、言い伝えられていることから「くぐり石」とも呼ばれています。

**神田地蔵堂(こうだじそうどう)**  
 その昔から神田の里は丹生都比売神社に米を奉納してきました。里の一隅に建つ地藏堂は、平安・鎌倉時代の高野参詣の人々の休憩場として存在し、お堂には、弘法大師(空海)、子安地蔵、後に御子(ごこ)も安置されました。悲恋物語のヒロイン、横笛(横笛門院)の娘(むすめ)が高野山の僧道(そうどう)の子である重盛(むねもり)の家来、本名(ほんな)斎藤(さいとう)に会うため、この地藏堂で待ったと伝えられています。

**二つ鳥居**  
 丹生都比売神社の東南にある二つの鳥居は、丹生明神と高野明神の鳥居で、弘法大師(空海)の建立と伝えられています。当初、木造のため改修をくり返しましたが、慶安2年(1649年)に現在の石造に改められました。この二つ鳥居からは天野の美しい田園風景が一望できます。町石道から高野山へお参りする際は、この二つ鳥居から高野の里を拝んだそう。

**白蛇の岩**  
 丹生都比売神社へ参る個が、この岩の間に入り込もつたとしていた蛇を杖でつかせたと。神社からの降り、巨大な蛇がこの岩の上の木に巻きついて待ち構えていたそう。その僧は自分の身を振り、再度丹生都比売神社へ参るご祈禱をして戻ると、大蛇はすぐに消えていたとのこと。それ以来、この岩で白蛇の姿を見ると「幸せになれる」といわれています。

**お願いご注意**

- 所要時間には昼食や休憩時間を含みません。また、標準的な歩行速度による目安なので、各自のペース配分をお守りください。
- ヒヤヒヤする場合は自分でお持ち帰りください。
- タバコなどの火の始末は十分ご注意ください。
- 自然はみんなの財産です。草花を摘んだり、樹木を傷つける行為は厳禁です。
- 体調や天候に注意して、ハイキングに適した動きやすい服装でお出かけください。必要に応じて雨具や薬などをご用意ください。
- 交通機関の時刻は、事前にご確認ください。
- 自然災害・工事などにより、コースを通行できない場合もございますのでご注意ください。

お問い合わせ 南海テレホンセンター  
 ☎06(6643)1005  
 ● 南海電鉄ホームページ <http://www.nankai.co.jp/>